



ハリー・ウインストン・レア・タイムピース社のマネージングディレクターとしてオーパスプロジェクトを立ち上げ独創的なコンプリケーションウォッチを世に出す。2005年には自身の名を冠したMB&F（マキシミリアン・ブッサー&フレンズ）を設立。

芸術とメカニズムの結晶



弱冠31歳の若さでジュネーブのハリー・ウインストン・レア・タイムピース社のマネージングディレクターに就任し、ダブルトゥールビヨンの開発など積極的な戦略で同社の本格的な時計メーカーとしての地位を築き上げたマキシミリアン・ブッサー氏は、時計界の寵児となった。だが、38歳になった昨年、新たな夢の実現のため、ユニークな時計メーカー、MB&Fを起業。そしてこの秋、従来の時計の概念を覆す「オロジカルマシンNo1 (HM1)」を発表した。それは過激なほどに一途なコンセプトと、究極のマクロメカニズムを追求した、芸術とメカニズムの結晶ともいえる作品である。その立体的なデザインと構造は、376のパーツと81個の機能性を極めたジュエル、オリジナルムーブメントによって構成されている。今後3年の間に製造されるのは僅か30個。立体彫刻のようなHM1を手には氏は語る。

「デザイン、技術、そしてフィーリングにおいても精緻を極めたアート・ピースといえるでしょう。一目で、好きか嫌いかはっきり感じられる、万人向けの無難な時計ではないということです。同社は今後もこうした過激でオリジナルな時計を生み出していきます。ブランドとしてのスタイルに固執することなく、毎年サプライズを創り出すのみです」

こうした時計を創り上げるのは、氏が世界から集めた、才能豊かな時計職人やアーティストなどのプロフェッショナルによる優秀なクリエイティブ・チームだ。

「このチームは全員が親しい友人です。新会社の理念は、時計を愛し、共に楽しみながら仕事ができる友人から構成される少数精鋭のフレキシブルなグループである、ということです。そのため環境として、企業の体制は透明性を重視し、オープンであるべきだと考えます。むやみに会社規模を拡大するのではなく、製品の質をさらに極めていきたい」

社名のMB&Fは、そうした確固とした理念が込められた、MAXIMILIAN BÜSSER & FRIENDSの頭文字をとったもの。起業に際しては、世界各地の時計業界関係者ら友人達のあたたかい支援があったという。今回は日本を含め、これらの世界各地の仕事先の友人らを訪ね、時計を披露する旅となった。「10代の頃は車のデザインに興味がありましたが、時計界に入ったのは、スキー・スロープでジャガー・ルクルトのゲルモン社長に衝突したという偶然的出来事がきっかけでした。人生には思わぬドラマがあるもの。そのリスクとチャンスを抱く気持ちを大切にしてきました。一方で、常に父にいわれてきた『全霊で楽しめることを仕事にしません』という教えに、忠実なのかもしれません」

イタリア・ミラノで生まれたブッサー氏は、スイス人の外交官を父に持ち、母はインド人という多国籍文化の中で育った。起業家でもありマイクロテクノロジーエンジニアの資格も持つブッサー氏の、ユニークでグローバルな視点はこうした環境にも起因するのだろう。